

# 教育の質の向上に関する取組状況

－教育の質の向上・FD活動の推進に向けて－

平成 23 年 12 月

国立大学法人埼玉大学 教育・研究等評価室

## I はじめに

教育の質の改善を図るため、第2期中期目標・中期計画では、「全学FDガイドラインに基づき、大学が一体となってFD活動を推進すること」、「各学部、研究科のFD委員会はカリキュラム委員会等と密接に連携して教育の質の改善策を図ること」、及び「毎年すべての教員が教育の実施状況について点検した結果を教員活動報告書に記載して提出するとともに、必要な質の改善策を講じること」としております。

教育・研究等評価室では、FD活動の推進及び教育の質の改善に資するため、教員活動報告書に記載していただいた教育の工夫・改善への取組と達成度、反省点をもとに、複数の教員が記載した改善策、課題・問題点を取りまとめ、共有すべき情報としてお知らせすることとしました。今後のFD活動の方策等を検討されるに当たっての一助となることを願っています。

## II 教育の内容・方法等についての工夫・改善への取組

全学部を通して、双方向授業、講義の充実、出席確認、理解の深化のためにミニットペーパー（質問票）を取り入れている事例が多く見られた。また、評価欄を設けたり、多くの学生が質問票に書いた内容に対して、ホームページで回答するなどの工夫もみられ、各教員がミニットペーパーの利用方法を独自に進化させていることがうかがえる。

また、板書やパワーポイントだけでなく、配付資料や映像を上手く使用することで、学生が講義に集中し、しっかりと理解出来るように様々な工夫が行われており、それらの資料等をホームページにアップし、学生の自主的な学習を促すといったウェブを活用した事例もあった。

教育学部及び理工学研究科では、討論型授業・プレゼンテーションといった双方向授業が積極的に行われており、プレゼンテーション能力の養成や課題を掘り下げて考える能力の育成に効果があったとの報告が多くあげられている。

以下、報告された事例の抜粋と、特に先進的であると思われる事例を掲載する。

### ①ミニットペーパー等に関する工夫

- ◆ **毎週コメントシートを提出**させ、そこで示された疑問には以降の授業でなるべく答えるようにした。
- ◆ **質問票に評価欄**を加え、毎回の授業に対する学生の評価を記入させ、毎回の授業の反省点を探る試みを行っている。
- ◆ 授業の初回および後半に独自に**授業評価アンケート**を行い、学生の満足度を逐次確認しながら授業を行った。

### □ ■ 先進的な取組 ■ □

- ◆ **「毎回レポート方式」を採用した**。この方式は、学生の能動的な学習と記憶の定着に役立ったと考えられる。①最初にその講義の内容に関わるテーマを出し、それに関する仮説を講義を聴く前に書いてもらう。②講義を行う。③講義を聴いた上での結論を書き、レポートを仕上げ提出する ※次回の授業の最初に、何人かのレ

ポートを読み上げる。また質問に回答する。「毎回レポート方式」は講義という形式を取りながら、学生との相互作用を実現する方法として、現在最も有効ではないかと考えている。

## ②講義方法の工夫

- ◆ **パワーポイントによるレジュメの配布と板書の併用**を行った。従来のパワーポイント中心の講義よりも、学生の聴く姿勢は幾分だが向上したように思われる。
- ◆ 学生が講義に集中できるように、**スライド内容をすべて印刷しハンドアウトとして渡し、講義内容を直接書き込めるようにした。**
- ◆ パワーポイントでの授業をやめて、**黒板に板書する授業にした。パワーポイントを使った授業に比べて、途中で眠ってしまう学生の数が減った。**
- ◆ 講義が終わった後はすぐに撤収するのではなく、板書をノートに書き写している学生がいる間はその場に留まり、**講義内容について学生が質問できる時間的余裕をとる**ようにしている。可能であれば5分ほど早めに講義を終えるようにしている。

## ③討論型授業・グループワーク・プレゼンテーションに関する工夫

- ◆ 実験直後に**全員で討論会**を行い、実験結果の評価、反省、課題について議論することでも研究・実験能力、データ分析能力のトレーニングを行った。
- ◆ 昨年度に引き続き**グループ討議や意見発表**といった授業内容を多く取り入れるよう工夫した。毎回の発表形式の授業は学生間でも定着し、発表のレベルも進歩がみられた。これは学生の主体性を尊重するにとどまらず、個々の学生のプレゼンテーション能力や他者の意見を傾聴し自己の思考や感性を融合していくという、**教員としてあるいは創造者および表現者としての資質向上や、内面的な成長を促す**ことができるよう配慮した。
- ◆ **プレゼンテーション実習**を行った。レポートと同じような結果・考察を発表するだけでなく、質疑応答をうけることにより自分たちの考えや意見を表現する力を養える点においては、画期的であったと思われる。なお、授業評価における評価項目ではおよそ8割の学生が満足できていると答えており、達成度の高い授業内容であったと言える。

## ④中間・期末テスト、小テストに関する工夫

- ◆ 学生の理解度を小テストで確認し、理解度が低かった部分については翌週に補習を行うなどして理解度の向上を試みた。
- ◆ 講義内容の理解度を知るために、毎回ミニテストを行っている。

## □■先進的な取組■□

- ◆ **30分の小テストを2-4回行って、その成績を40%の重みで評価した。**この小テストは試験直前の詰め込み暗記を防ぎ、日常の予習と復習を促すのが目的であるが、基礎的な内容の理解度をチェックする目的も兼ねており、翌週の講義で全員に採点したものを返却している。

- ◆ 問題の難易度や試験の採点基準を下げるのではなく、専ら学生の勉強・努力の向上によって打開する道を探り、**2度にわたり中間試験を実施**することとした。

### ⑤教材・資料の工夫

- ◆ **穴埋めノート(教科書の穴あき)を全回分作成し配布**。学生が板書に忙殺されることなく、書きながらポイントを把握できるようになった。
- ◆ **未完成の授業ノートを全員に配布**し、プロジェクター投影と板書でノートを完成させる方法を採用した。大量の板書写しから解放されることで、学生と対峙した説明に時間をかけられるようになったことから学生の評価も比較的高く、授業の履修率も格段に向上した。
- ◆ **独自の指導書を用意**し、実験の目的を理解するための理論的な背景、各実験のキーポイント、まとめ方について詳細にまとめた。
- ◆ ホワイトボードでは表現しきれない内容について、すべて **Excel と PowerPoint により動画を含めたコンテンツに書き換えた**。また、これらを講義時間に配布し、かつ予習・復習ができるように**ホームページにアップロード**を行った。

### ⑥その他先進的な取組

- ◆ **ゲストスピーカーの活用**: 講義担当者の知人を招へいし、企業評価について講演していただいた。本公演会について「学生による授業評価」では高い評価を得ることができた。
- ◆ **大学教育のグローバル化への対応: 英語の教科書を用いた**ため、講義開始当初は学生より不満の声も上がったが、教科書指定の理由を丹念に説明することで、当該教科書指定の理由について学生たちが理解してくれた。これにより、受講学生の英語に対する反応が変化した。
- ◆ **大学教育のグローバル化への対応**: 輪講では、**報告資料の作成などに部分的に英作文を取り入れて**、「ある程度英語で論文が書ける学生」を育成することを目指している。→ 平成 17 年度から始めたが成果が上がりつつある。報告資料を添削して返しており、英語力向上に結びついている。(理工学研究科)
- ◆ **予習・復習の促進**: **授業中の質問・発言に評価点を与える**ことで、予習を促してきた。
- ◆ **レポート力の向上**: 毎回講義の最後に 400 字の**講義内容の要約を作成させる取組**を行った。文章を書く訓練としては、良い取組だったと考えている。
- ◆ **Webページ活用**: 小テスト、単元試験を行っているが、これらの**成績状況については暗証番号を学生に割り当て、ウェブ上で開示**することとしている。これにより、勉学に対する姿勢を促すように工夫している。

### Ⅲ 教育の内容・方法等についての反省点及び問題点

全学部を通して、学生の授業態度や学習意欲の欠如といった学習の規律に関する問題が多くあげられた。また、受講者数の多い講義においては、授業の硬直化、一方向化、授業環境の悪化などにより授業評価が低くなりがちであるという問題があがっている。板書とパワーポイントとの兼ね合いの問題と併せて、どのようにして学生が積極的に授業に関わることができ、学生が満足できる質の高い講義を行えるかが共通の問題である。

このほか、依然としてレポート指導に時間が割かれてしまうという意見やオフィスアワーの在り方を問う意見もあった。

以下、報告された事例を抜粋したものを記載する。

#### ①学習の規律に関する問題

- ◆ コメント欄に「実習態度も成績考慮に入れて欲しい」という意見があり、**一部不真面目な学生の態度が他の学生を不快にさせていた**ことがわかった。この点について実習中に気づくことが出来なかったが、次年度以降注意したい。
- ◆ 集中度の低い学生がおり、**作業時の安全性および実験の正確性等に配慮した指導が必要である**。
- ◆ レポートの提出期限を守れない事例が急増している。
- ◆ 受講生が200名を超える講義において、毎回自著のサインをする方式を採用しているが、学生評価の自由記述では「意味がない」という意見があった。これは「①サインをしたら出ていくか、終わりの方に来てサインだけする人がいること。②友人のサインを似せて書く学生がいること」に対する不満であると思われる。

#### ②講義方法等に関する問題

- ◆ **パワーポイントだけだと眠くなる。口頭による説明だけでなく、板書やプリントを増やして欲しいとの希望が多かった**。しかし、板書を写すだけでノートが完成するような板書では、学生の能動的な学習にはつながらないし、限られた授業時間でそれほど多くの板書は出来ない。
- ◆ 「**パワーポイントでの授業は、見ているだけで学生が理解しようとはしていない**」との意見が大勢を占めた。授業中に学生がノートを取ることから解放されて、授業を聴き、理解することを目指していたが、ノートを取ることからは解放されたが、授業を受けることから解放したようである。このままでは、**大学の授業が劇場のようになってしまうと**考え、平成20年度に OHP、プリントを一切やめて、**板書を主にした従来型の授業方式に変えた**。
- ◆ 黒板を使う場合はゆっくりと説明でき、学生も寝ないでノートを取っているという長所がある一方、講義範囲が狭くなる（授業進度が遅い）という問題があった。
- ◆ 時事問題を話題に取り上げるなどの努力をしているが、学生の反応は弱い。中東やラテンアメリカなどの海外の発展途上国に対する関心も弱いようだ。

### ③受講者数に関する問題

- ◆ 受講者の多い授業では、少ない授業と比べると授業の満足度が低くなった。その原因の一つは、**話が一方的になった**ことだろうと思われる。その点について、授業内容を絞り、また、ゆっくり話すことを試みたが、いくぶん受講者の反応がよくなったように感じた。
- ◆ ゼロ免コースのカリキュラム変更・過渡期等により、100名を超える受講者のため、**一方的な講義形式の授業スタイルにならざるを得なかった**。このことにより、授業は硬直化した。
- ◆ 大人数の授業でも、発表形式を一部取り入れたりしてはいるが、学生による発表の場合にも積極的に質問は出にくい。概して、一方向となりがちなためか、学生評価において思考力の向上、関心の引出の評価がやや低い。授業時間中に学生自身が考える時間の設定などのさらに工夫の余地がある。

### ④レポート作成に関する問題

- ◆ **学生による発表は、ウェブのコピペが大半**であり、注意を促しても改善されなかった。1-2年次にコピペのみでレポートを書いてきた実態も学生から聞かれ、資料の探し方やレポートの書き方を別途レクチャーする必要があった。
- ◆ 課題発表時に文献の引用について厳しく指導注意したにもかかわらず、**ウェブサイトの無断引用**が多く、いわゆるコピペの発見とその場合の評価と対処（できるだけ当人にメールで連絡、確認、改訂再提出を要請）に時間を要している。低学年であったり、理系の学生であったりするため文系レポートの書き方の基礎を知らない学生も多いので、レポートの書き方もこの講義を通じて習得できるように仕向けているが、学生数も多く時間の制約で完全には実施できていない。

### ⑤その他の問題

- ◆ **オフィスアワーに関する問題**: **オフィスアワーの実質的効果は少なかった**。学生への周知不足か、需要の不足か不明。
- ◆ **教材・資料に関する問題**: 講義内容のパワーポイント版への編集によって生じる新たな課題（講義の進行が速い、資料をPDFで入手するのが煩わしい等）も挙がってきている。受講学生が多くなる中、毎回のプリント印刷は費用の面からもできず、**最近の講義のスタイルに学生自身も順応することも必要**と思われる。
- ◆ **授業評価に関する問題**: 一部の学生は**授業評価の主旨を理解していない**ように思われる。

以上